

## 1. 産業革命からスポーツの成立へ

イギリスでは、産業革命によって鉄道が敷かれ、地方から都市へ短時間で移動できるようになります。すると、パブリックスクール（貴族の子弟が集団生活する私立学校）同士の交流試合も行われるようになります。しかし、ここで問題なのは、それぞれの学校でゲームの仕方が違うということでした。試合の前には、両方のチームの代表者が、相談してルールを決めなければなりません。こういうことを試合ごとに行わなければならないので、大変不便でした。これと同じことが大学でも起こります。パブリックスクールを卒業した貴族の子弟は、大学に進学するのですが、そこでフットボールをやったとしても、やり方が違うためにゲームができないということが起こります。また、鉄道の発達によって、地方から都市にたくさんの人が移り住むようになります。工場で働く労働者の間でも、フットボールが行われるようになりますが、また、同じように、ルールが違うので、試合前に話し合いをしてから、ゲームを行うという不便なことが起こったのです。このような状況の中、やり方を一つにしようという「統一ルール」の声が上がってきます。

## 2. FA(フットボール・アソシエーション)の結成

産業革命が起こってから約百年後の1863年、13条からなるフットボールの共通ルールができます。それまでに、数回の会議がもたれたのですが、その会議では、大きく2つの意見が対立します。

多くの人たちが賛成するルールと言うのは、ボールを手で持って扱ったり、手で持って走ることを禁止しました。ボールは主に足でけて運ばなくてはならない(ドリブルの使用)とし、相手の足をけったり、すくったりすることも同時に禁止したのでした。

一方、少数派の意見は、ボールを持って走ったり、相手をたおしたりすること(タックル)など、相手と体を触れ合うことこそ、フットボールの一番おもしろい所だとして、意見をゆずらなかったのです。

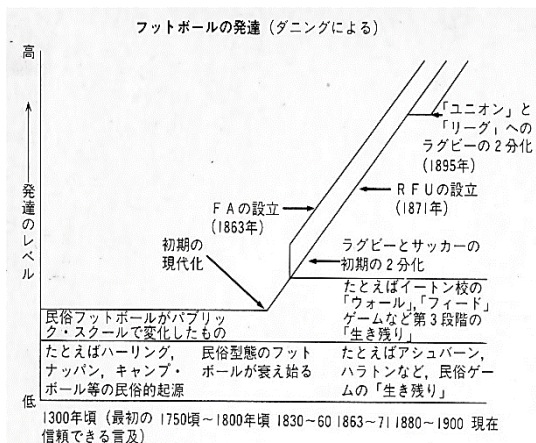
数回の会議でも決まらず、結局、多数決で決めることになりました。そして13対4で多数派の意見が認められたのでした。そして、フットボール・アソシエーション(FA)のルールが生まれ、フットボール協会が生まれることになりました。

ところが、少数派はこの決定を認めず、フットボール協会を去ることになりました。

協会を出て行った人たちは、1871年に自分

### フットボール・アソシエーション・ルール (8th, Dec, 1863)

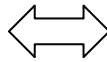
- (1) グラウンドは、長さ200ヤード、幅100ヤードを最大とする。長さとは幅はフラッグで示される。ゴールは8ヤードの間隔のある2本のポストで作られ、これらを横切るテープやバーは用いない。
- (2) ゴールの選択はトスで決められる。ゲームはトスに敗れたチームが、グラウンドの中央からキックオフすることで開始される。相手側チームは、ボールがキックオフされるまでボールの10ヤード以内に近づいてはならない。
- (3) ゴールが得られた後、両チームはサイドを交代し、得点された側がキックオフを行う。
- (4) ゴールは、ボールがどんな高さであってもゴールポストの間を通過したときに得られる。ボールがゴールに投げこまれたり、ノックオンしたり、手で持ちこまれたりした場合、ゴールとは認めない。
- (5) ボールがインタッチになったとき、そのボールに最初に触れたプレイヤーが、ボールが境界線を出た地点から、グラウンド内に直角に投げ入れられなければならない。そのボールがグラウンドに触れるまでインプレイにならない。
- (6) プレイヤーがボールをキックしたとき、そのボールより相手側ゴールに近い位置にいる同じチームのどのプレイヤーもアウトオブプレイで、そのボールに触れることはできない。またどんな方法によっても、彼がインプレイの状態にあるまで、他のプレイヤーのプレイを妨げてはならない。しかし、ボールが自陣のゴールラインの後方から蹴られたとき、プレイヤーはアウトオブプレイではない。
- (7) ボールがゴールラインの後方へ行った場合、もしもそのゴール側のプレイヤーが最初にそのボールに触れたならば、そのチームはゴールラインからのフリーキックが与えられる。キックの場所は、ボールに最初に触れた地点からゴールラインに垂線を延長した地点である。しかし、もしも相手側チームのプレイヤーが最初にボールに触れたならば、そのチームにゴールラインの内側15ヤードの地点からのフリーキックが与えられる。その場所は、ボールに最初に触れた地点からゴールラインを越えて垂線を15ヤード延長した地点である。このとき、ゴール側のプレイヤーは、キックが終わるまでゴールラインの後方にいなければならない。
- (8) プレイヤーが踵でマークをすると同時にフェアキャッチを要求すれば、彼にはフリーキックが与えられる。彼はフリーキックをするために彼の望むところまで後退してよい。相手側チームのプレイヤーは、彼がキックを終るまで、マークを越えて進むことができない。
- (9) プレイヤーは、ボールを持って走ってはならない。
- (10) トリッピングやハッキングは許されない。また相手側プレイヤーをとらえたり、押ししたりするために手を使ってはならない。
- (11) プレイヤーは、ボールを手で投げたり、味方プレイヤーにパスしたりしてはならない。
- (12) インプレイ中に、どんな理由があろうとも、グラウンドからボールを手でとりあげてはならない。
- (13) 靴の先端や踵に、釘、鉄片、ガッターチャーを取り付けてはならない。





1875年のサッカーゲーム

対立



### サッカー派

足を使うからこそフットボールと言う。パスを回してシュートするのがフットボールの魅力だ。

### ラグビー派

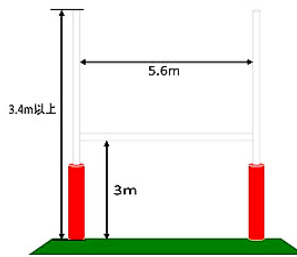
相手を倒すことこそ、フットボールの魅力だ。密集でのボールのうばい合いが面白い。

たちで別の協会を作り、ちがったルールによるフットボールを行います。そのルールはラグビー校で行われていたものを主に用いたため、ラグビー・フットボール(ラグビー)とよばれるようになりました。

こうして、イギリスのフットボールは、2つのタイプで行われるようになりました。当時のイギリスは、多くの植民地を世界各地に持ち、ヨーロッパはもちろん、中南米の国々、アジアへも伝わりました。アソシエーションフットボール(FA)は、アジアやアメリカでも行われて、一部の国では、「サッカー」とよばれるようになりました。一方、アメリカに伝わった、ラグビーからは1880年に「アメリカンフットボール」が生まれ、アメリカを代表するスポーツとして発展します。

### 3. サッカーゴールとラグビーゴール

ラグビーのゴールはH字型で、サッカーのゴールは四角く、ネットがはってあります。ラグビーのゴールはH字型のバーの上をボールが通過したら得点となるのに対して、サッカーではバーの下、つまりネットに入ったら得点となります。このちがいはどうしてなのか?というお話です。



ラグビー校の1845年のルールの中には、ゴールについて次のように書かれています。「ゴールは14フィート(約4.5m)の間隔に、二本の棒をまっすぐ立て、10フィート(約3m)の高さの所にバー(横木)をわたす。そのバーの上をこえればゴールである。バーの上に立つようなことをしてはいけない」と。きっと昔はバーの上に立つような生徒がいたから禁止をしたのでしょう。ラグビー校では、横木の上をボールが通るとゴールになっていたのです。

ラグビー校におくれること4年、歴史の古いイートン校でも、ラグビー校とは全く反対のルールを決めました。

「ボールをつかんだり、手で持って走ったり、投げたり、打ったりしてはいけない。」「ゴールポストは、地面から7フィート(2.1m)の高さとし、ポスト間の距離は11フィート(3.3m)とする。ボールをけて二本のポストの間を通った場合にゴールとなる。ただし、キックはバー(横木)の上をこえないものとする。」このルールが後のサッカーのルールの元になっていったのです。



バー(横木)の上を通るか、下を通るのかというパブリックスクールのルールのちがいで、ラグビーとサッカーに分かれて行き、ゴールも今では全くちがった形になっているのです。